令和7年度の学校評価

本年度の重点目標	①授業づくり ・教職員一人一人の専門性の向上を図り、発達段階や年齢、特性に応じた指導・支援をする。 ・授業実践をもって校内研究のまとめをし、12年間の学習の系統性を整理する。 ・デジタル教材とアナログ教材のバランスを考え、学習効果の高い指導方法を研究する。 ②安全・安心対策 ・感染症や気象情報、防災情報など常に最新の情報に基づいて検証し、迅速な対応につなげる。 ・激甚災害時など非常事態の備えについて再度確認し、実際に近い形で繰り返し訓練をする。 ・児童生徒にとって安全で安心できる学校であり、教職員にとっても安全で安心して働ける職場であることを目指し、多角的に学校環境を見直し、改善を図る。 ③地域連携 ・学習に地域資源を生かし、年齢に応じて身近なところから社会性を身に付けられるようにする。 ・地域の特別支援教育力向上のため、積極的に情報発信をし、協力をする。 ・効果的な学習や卒業後のよりよい生活のために、医療や福祉、入学前施設や進路先など関係機関との連携を図る。			関連する重点目標の番号
項目	重点目標	具体的方策	留意事項	
小学部	個々の児童の課題に即した指導・支援のために自立活動の充実を図る。	研修と授業参観を通して、実態から考えられる課題に基づいた重点目標を設定し、学校生活全体での取組と時間の指導の中での取組を検討し、実践する。	自立活動年間指導計画のより一層の活用を進める。自立活動部、教務主任と連携し、部会後にミニ研修会を行い、小学部児童に合った目標設定、時間の指導の具体的内容などを紹介し、職員の自立活動についての知識を深める。参観週間を利用して自立活動の授業参観を勧め、実際の授業づくりの参考にする。	①
中学部	生徒の心と体の成長を理解し、適切な時期に必要な指導・支援を行うための年間指導計画を作成する。	中学部の保健体育科年間指導計画について、保健の授業内容、時期などを3年間の系統性を考慮し、授業実践をとおして作成する。また、生徒の心や体の変化をよく観察し、問題があれば、担任を中心に、学年内、部内で共有し解決策を考えていく。	年度初めに保健体育科の年間指導計画をそれぞれの学年や中学部体育科で見直し、必要な時期にどのような内容で指導していくかの計画を立てる。その際に、学校保健計画から養護教諭や栄養教諭の助言・協力をいただきながら、手洗い、歯磨き、食育、性教育などの指導内容を取り入れる。計画に沿って授業実践・参観をし、反省、評価、改善を行うことで3年間の系統性のある指導計画を作成する。合わせて生徒の心と体の変化をよく観察し、必要な場合は保護者、養護教諭、栄養教諭、スクールカウンセラー、学校医、かかりつけ医などと連携し、問題解決を図る。	① ③
高等部	高等部の教職員一人一人が専門性の向上を図り、生徒の指導・支援に生かす。	積極的に授業を参観し、専門性の向上や授業づくりの充実を図る。校内外の研修などに主体的に参加し、専門的知識や技能を身に付ける。	授業参観を高等部内6回、他部6回、一人当たり12回以上を目安とする。夏季校内研修、eラーニングなど（現職研修を除く）校内外の研修に一人当たり3回以上の参加を目安とする。参観や研修の後、簡易な表に入力する。	①
総務部	保護者や地域、関係機関へ学校の様子を周知することに努める。	学校要覧や学校だより、校外作品展などを通じて効果的な情報発信を行う。紙面を工夫したり作品の展示方法を工夫したりする。	今年度から学校要覧の形式を大きく変更したため、来年度によりよい紙面となるよう検討する。学校だよりは、各学期末に1回、年3回の発行を継続し、各行事や児童生徒の活動の様子を偏りのないように記載し、学校全体の様子を伝えるようにする。伸びゆく子どもたちの作品展や校外作品展では、校内への周知、作品の回収、搬入準備や搬入・搬出などの計画をし、児童・生徒の作品が生きるような作品展となるように検討する。	③
教務部	児童生徒の主体的・対話的で深い学びにつながる授業実践を通して授業改善へ意識を高める。	全職員に向けて、主体的・対話的で深い学びについてやR6から改善した学習シートの意図や作成方法について周知を図る。学習シートを作成して年間2回の授業実践を行い意見交換の場を設ける。	研修部と連携を図り、授業実践する時期を調整したり、授業実践の進め方について適宜説明したりする。授業実践にあたり、他学部、他教科のさまざまな職員の授業が見られるように計画を立てる。必要であれば時間割を調整する。東知研で行う授業については、校内研究グループ、学部、学年の職員で意見を出し合い、みんなで授業を作りあげていけるようにする。	①
保健体育部	自分の健康を守ることのできる児童生徒の育成を目指し指導・支援の充実を図る。	栄養教諭・養護教諭と連携し、偏食や肥満に関する取組を充実させる。（事例の集約・共有や偏食・肥満に関わる研修の開催等）	R7年度は、肥満や偏食に焦点を当てるが、健康づくりのグランドデザインを提示し、肥満以外の健康課題についても意識してもらう。運動月間は継続して行うが、より多くの児童生徒に取り組んでもらえるよう、実施方法や告知方法を工夫していく。	①
		児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、学級指導や現職研修で活用できる動画を作成する。	児童生徒が健康診断を理解できるよう、健康診断の手順の動画を作成して、学級指導での指導支援を行う。正しい嘔吐処理の動画を作成し、感染の二次被害を防ぐ手技を教職員に伝える。	②
生徒指導部	激甚災害時に向けて訓練の充実を図る。	想定される状況を複数考えて訓練を実施する。	実際に近い形で訓練を行い、臨機応変に対応する力を高める。また、情報図書部と連携して、アプリ（シグフィー）を利用して、保護者に向けて安否確認の訓練を行う。	②
	生徒の心身の変化を把握し、相談の機会を設け、悩みの早期発見に努める。	生活アンケートを実施し、相談しやすい環境を整える。	アンケート結果を周知し、必要に応じて関係機関と連携する。産業科の全生徒については、スクールカウンセラーと面談する時間を設ける。また、必要に応じていじめ不登校対策委員会を開催し組織的に対応をする。	③
進路指導部	福祉制度に則った進路選択の方法を知り、主体的に進路選択できるよう努める。	法令、条例等を示す機会を多く設定する。キャリア教育に基づいた指導支援を図っていく。	新しくできる選択支援サービスについて情報収集し提供する。 各担任各部それぞれ進路指導を主体的に発信できるよう知識を深める。 進路指導講話や現職研修等を有効に活用できるよう推進する。	③
自立活動部	外部専門家との連携の充実を図る。	専門家による指導・助言の場を設定したり、研修を実施したりする。	こども発達センターとの連携に関する取組を教育支援部から引き継ぎ、自立活動の指導の充実につながる内容となるよう検討する。 大学准教授を講師として招き、授業づくりのプロセスについて研修を行う。本校の自立活動に関するニーズに迫る内容になるよう連絡を取り合い、進めていく。	① ③
研修部	東知研の運営のための準備から引き継ぎまでを行う。	引き継がれた資料を元に計画的に進めるとともに、検討する場を十分に設けたり共通理解できる手段を設けたりする。	期日に余裕をもって計画を立てる。各分掌や外部機関と密に連絡を取り、進捗状況などを確認する。検討する場を設けて、多くの視点で大会を考える。学校全体で運営できるよう共通理解を図るための工夫をする。	①
	校内研究のまとめをする。	まとめの方向性を明確に示し、全員が同じ目標をもって取り組めるようにする。	校内研究の内容を、新転任者を含め全体に早めに周知する。流れを明確にして、計画的に進められるようにする。	①
情報図書部	研修会の記録動画などをいつでも見返すことができるようなシステムを構築する。	校内研修などを、動画撮影や音声録音して保存する。 校内サーバーに保存して閲覧できるようにする。	研修部と連携し、無理のない範囲で動画撮影などを行いデータを増やしていく。 自由に閲覧ができるように、配信アプリを活用してオンデマンドでの研修に対応する。また、その際に著作権にも留意をするように周知徹底する。	②
	図書室や本の扱い方について、正しい習慣が身に付くように通信や掲示物を改善する。	児童生徒が本を大事に扱い、整頓して返却する習慣を身に付けるように、通信や掲示物などで分かりやすく提示する。	児童生徒が理解しやすいように、シンプルで具体的な言葉を使うように心がける。また視覚的に理解しやすいように、イラストや写真を使って表現をする。	②
教育支援部	校内支援についての仕組みを再整理する。	校内職員のニーズに対応できる校内支援について検討し、各業務の役割やねらいについての整理・改善を行う。	校内支援を「くすのきサポート」という名称に変更し、その取組についての周知を定期的に行う。「相談シート」を活用した相談等を実施し、校内職員のニーズを把握したり、相談の内訳の集計を行ったりすることで取組のフィードバックを行う。	① ③
多忙化解消	業務改善及び効率化を図る。	業務改善の具体的提案を収集し、業務の改善や業務均等化を継続的に図る。	業務改善の具体的提案を募り、効率的で継続的な方法を検討する。具体的に業務を効率化しながら、個々の意識を高められるよう促していく。	②
学校関係者評価を実施する主な評価項目		・児童生徒の発達段階や年齢、特性に応じた指導・支援の充実 ・児童生徒が安全・安心して学校生活を送るための環境整備及び指導・支援の充実 ・積極的な情報発信による保護者や地域、関係機関との連携		